



2026 年 2 月 5 日

各位

株式会社日本住宅保証検査機構

新刊書籍「防水施工マニュアル 2026」を
2026 年 2 月 10 日より書店販売開始
－ 自社の防水仕様を総点検!! －

株式会社 日本住宅保証検査機構(代表取締役社長:角 直樹、本社:東京都千代田区、愛称/JIO(ジオ)) は、このほど、「防水施工マニュアル(住宅用防水施工技術)2026」を技報堂出版より発売します。

住宅の雨漏り事故などの不具合は、住宅建材の品質や性能が向上した近年においても一定の割合で発生し続けています。当社は 1999 年の設立以来、住宅の雨漏り事故などに向き合い、事故の原因分析と独自の実験・研究を進めてまいりました。

本書は、5 年前に発行した「防水施工マニュアル(住宅用防水施工技術)2021」を改訂したものです。雨漏り事故 2,577 件の徹底分析に加えて、施工品質の維持・向上をサポートする施工状況確認検査のうち断熱材検査 2,751 件での施工不具合について分析を行いました。その成果として、住宅外皮の「防水」と「外壁の断熱」について、設計施工におけるリスク対策として部位ごとに押さえるべきポイントや、正しい施工手順をまとめています。

事故分析の結果から、雨漏りなどリスクを低減するためには、標準納まり・使用材料・寸法を明確にした仕様書を整備したうえで、正しい施工を理解・実施・チェックする体制の構築が重要であることがわかりました。そこで、書籍の内容を網羅した「防水仕様書」の参考例と仕様書作成のポイントを付録としています。

本書を自社の防水仕様の総点検にご活用いただき、仕様書を整備し、情報共有・業務の効率化を図ることで、雨漏りなどリスクの少ない住まいづくりに繋がると考えています。住宅設計者、現場施工者の皆様に、ご一読いただければ幸いです。

■ 書籍概要

書 籍 名: 防水施工マニュアル(住宅用防水施工技術)2026

編 集: 株式会社日本住宅保証検査機構

定 価: 4,950 円(本体 4,500 円+税)

規 格: B5 判 298 頁(フルカラー)

発行出版社: 技報堂出版

<https://gihodobooks.sslserve.jp/book/2659-3.html>

書籍発行日: 2026 年 2 月 1 日

発 売 場 所: 全国の書店、出版社のホームページ、インターネット通販サイト 等



■ 書籍内容紹介

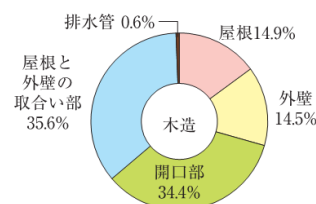
- ① 雨漏り事故 2,577 件、断熱材検査 2,751 件を徹底分析。防水分野では実証実験を行い、施工で押さえるべきポイントの根拠を確認
- ② 雨漏りなどリスクを低減する施工の手順や押さえるべきポイントを、1,200 点を超える図表や写真で詳細に解説
- ③ 施工不具合事例と正しい施工の併記で「見てわかる」を実現
- ④ 書籍内容を網羅した「防水仕様書」参考例を掲載。自社の防水仕様の総点検と仕様書整備に活用をして、情報共有・業務の効率化を図る一助に

第 1 章 統計 2. 木造住宅の雨水浸入部位

雨水の浸入を防止する部分の事故について、法令で定める「屋根」「外壁」「開口部」「排水管」に「屋根と外壁の取合い部」を加えて 5 つに分類し、その割合をグラフにまとめた。

「屋根と外壁の取合い部」と「開口部」で 70% を占めている。

他、木造住宅で保険金支払いが完了した 2,276 件を対象に、計 5,727 の雨水浸入箇所を特定し、127 項目に分類したうちの雨水浸入箇所ワーストランキング 20 位を作成。



【雨水の浸入を防止する部分】
保険事故発生部位の割合
(2008年12月～2020年6月までの累計)

第 4 章 木造住宅 屋根と外壁の取合い部 4. 軒裏換気部材の位置

(左) 軒裏換気部材に関する設計施工のポイントを示し、軒裏換気部材の位置の違いで軒裏などへの雨水浸入状況が変わるかを、大型送風散水試験装置を用いて実証実験を行った。
(右) 実験結果と考察。ポイントに記載のとおり、軒裏換気部材は、軒側は鼻隠し寄り、けらば側は破風寄りに設置することが適切であると確認できた。

4. 軒裏換気部材の位置

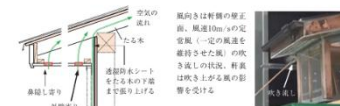
① ポイント

1. 軒の出がある建物の軒裏は、吹き上げる風の影響を受ける。
2. 軒裏換気部材は、軒側は鼻隠し寄り、けらば側は破風寄りに設置する。
3. 軒裏に設置する換気部材は防雨効果のあるものとする。
4. 透湿防水シートは小屋裏換気に支障が生じない範囲で木に密着する位置まで張り上げる。

② 実験

軒裏換気部材の位置に関する送風散水実験

軒の出のある建物の軒裏に、防雨効果のない換気部材を「鼻隠し寄り」または「破風寄り」に設置。軒天取合い部の透湿防水シートをたるみで張り上げ、雨水浸入状況を確認しました。



試験の種類	送風散水試験
試験体の仕様	野地板、鼻隠し・破風、サイディングは透湿アクリル板を張り、軒裏の透湿層を小屋裏まで連続させ雨水浸入より防止
送風散水条件	風速 10、20m/s（定常風） 送風散水時間 5分 散水量 11.0g/㎡・分（10分間降水量 40mm 相当）
送風散水の方向	軒側 けらば側 けらば側の真正面



試験結果と考察

軒天取合い部に張り上げた透湿防水シートの状況（透湿防水シートの代わりに表紙が貼付すると黒く変色する透湿膜を使用）

試験	鼻隠し寄り	破風寄り
10 m/s	透湿膜→破風寄り 野地板表面→付着なし	透湿膜→破風寄り 野地板表面→付着なし
20 m/s	透湿膜→破風寄り 野地板表面→付着なし	透湿膜→破風寄り 野地板表面→付着なし

試験	破風寄り	破風寄り
10 m/s	透湿膜→破風寄り 野地板表面→付着なし	透湿膜→破風寄り 野地板表面→付着なし
20 m/s	透湿膜→破風寄り 野地板表面→付着なし	透湿膜→破風寄り 野地板表面→付着なし

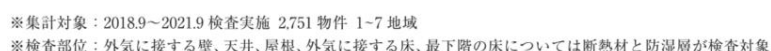
試験装置の吹き出し口面積が試験体より大きく、実際の風の影響に近い状態を再現できました。軒裏の防雨効果のない換気部材は、上向きの風の影響を受けスリット（開口部）から雨水が浸入します。換気部材の位置は、軒側・けらば側ともに軒裏寄りの方が雨水の浸入リスクが低いです。換気部材は、軒側は鼻隠し寄り、けらば側は破風寄りに設置することが安全です。換気部材は防雨効果のあるものを使用します。



一般財団法人建材試験センター
大型送風散水試験装置
吹き出し口寸法 2500mm × 2500mm

(左) 雨水浸入箇所ワーストランキング 5 位「防水層とサッシの取合い」で雨漏り事故があった物件について、2 通りの工程「サッシ先付け、防水あと施工」と「防水先施工、サッシあと付け」別の発生割合をデータにまとめた。この箇所の雨水浸入の主な原因は、先付けサッシの下枠と FRP 防水の不連続施工にある。サッシ先付けによる FRP 防水施工の難しさと施工不具合事例を紹介。

(右) リスクの少ない「防水先施工、サッシあと付け」の工程における、サッシと FRP 防水の取合い部シーリングの施工手順を解説。



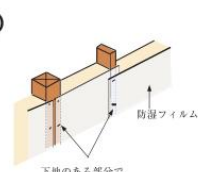
充填断熱工法および外張断熱工法における外壁の断熱材施工手順や施工上の留意点を、150 点を超える写真や図表を用いて解説。充填断熱工法では繊維系断熱材のうち「防湿フィルム付属グラスウール断熱材」と「防湿フィルム別張りグラスウール断熱材」の施工手順などを掲載。

事例 防湿フィルムを柱の側面に留め付け

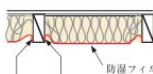
防湿フィルムを柱の側面に留め付ける施工は、防湿層の連続性を確保できません。防湿フィルムは、柱や間柱などの下地がある部分で、重ね代 30mm 以上を確保します。



防湿フィルムが柱の側面に

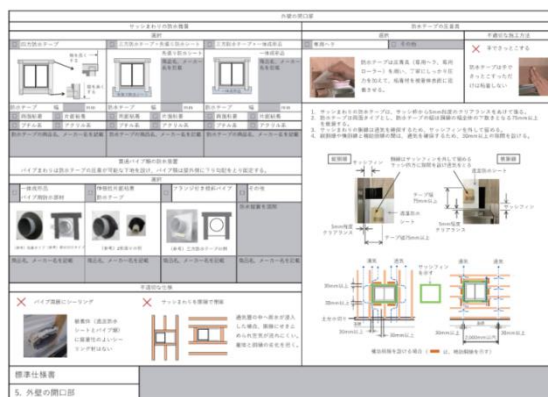


防湿フィルムの重ね代30mm以上
ステープル留めは $\phi 200$ mm程度



防湿フィルムが間柱の側面に留め付けされている。

そこで、本書にて防水仕様書作成のポイントと参考例を掲載することで、自社の防水仕様の総点検や図面に差し込める防水仕様書づくりの一助になると考え、付録としている。



TEL:03-6859-4800 (代表)